

平成22年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ダイズ害虫ウコンノメイガに対する薬剤防除効果		
[要約] ウコンノメイガに適用のある薬剤はいずれも若中齢幼虫には卓効があるが、終齢幼虫に対しては防除効果が低下するため、防除時期が遅れないように注意する。					
キーワード	ダイズ	ウコンノメイガ	薬剤防除	環境部	病理昆虫研究室

1 背景とねらい

ダイズ害虫ウコンノメイガは、かつて岩手県で発生頻度の低い害虫であったが、平成17年から多発傾向がみられ、被害の大きい圃場も散見されている。

本種は夏期に発生し、初発が確認されてから終齢幼虫に達するまでの期間が短い。このため、齢構成の異なる時期において現在適用のある薬剤を使用した防除効果について比較検討し、防除効果が高い齢期を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) ウコンノメイガに適用のある薬剤はいずれも若中齢幼虫には卓効があるが、終齢幼虫(6齢)に対しては防除効果が低下する。このため、防除時期が遅れないように注意する(表1、表2、図2)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) ウコンノメイガ幼虫はダイズ葉巻を開くことで容易に確認することができる(図1)。また、終齢幼虫の体長は20~25mm程度、5齢幼虫以下の体長はいずれも20mm未満である。
- (2) ダイズのウコンノメイガに適用のある薬剤は、スミチオン乳剤、トレボン乳剤、サイアノックス粉剤である(平成22年10月27日現在)。
- (3) 防除時期および要防除水準については現在試験中であるが、現時点の病害虫防除指針では防除時期は7月下旬から8月上旬であり、富山県の要防除水準(7月第6半旬の株あたり葉巻数が6個)を参考にすることとしている。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

普及センター等の営農指導者

(2) 期待する活用効果

ウコンノメイガの適期防除を可能とし、ダイズの安定生産に寄与する。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H21-06)ダイズを加害するウコンノメイガの発生生態の解明と防除対策の確立[H21~23/令達]

6 研究担当者

横田 啓

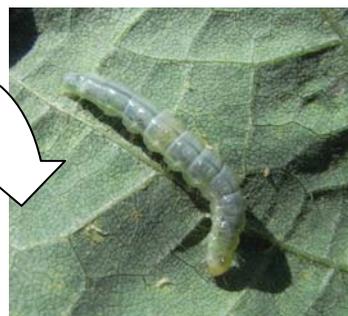
7 参考資料・文献

- (1) 成瀬博行・新田朗(1985)ダイズ害虫ウコンノメイガ *Pleuroptya ruralis* の生態と防除に関する研究 .ダイズ圃場における発生経過、富山農試研報 16:27-33

8 試験成績の概要(具体的なデータ)



葉巻



終齢(6齢)幼虫

・葉巻を開くと、ウコンノメイガ幼虫を容易に確認することができる
 ・終齢幼虫の体長は20~25mm程度、頭幅は1.6~2.1mmであり、5齢以下の幼虫の体長はいずれも20mm未満である

図1. ウコンノメイガの葉巻と終齢幼虫

表 1. ウコンノメイガ若中齢幼虫に対する薬剤防除効果(2009)

供試薬剤	25茎当たり葉巻数				補正密度指数 15日後
	散布直前	3日後	7日後	15日後	
スミチオン乳剤 1,000倍	18.5	10.5	14.0	23.5	9
トレボン乳剤 1,000倍	21.5	19.5	19.0	19.0	6
サイアノックス粉剤 4kg/10a	20.5	10.5	14.0	44.5	16
無処理	25.5	54.0	107.5	352.5	

8/4薬剤散布。葉巻数による試験。散布時には1～4齢幼虫が主体。数値は2反復の平均値を示す。調査地：農業研究センター所内圃場。乳剤は動力噴霧機、粉剤は手回し散布機を用いて所定量を散布した。

補正密度指数=(処理区の15日後密度/処理区の散布直前密度)×(無処理区の散布直前密度/処理区の15日後密度)

若中齢幼虫対象とした場合は、いずれの薬剤も卓効がある

表 2. ウコンノメイガ終齢(6 齢)幼虫を主体とした薬剤防除効果(2010)

供試薬剤	葉巻内虫数(10茎あたり)													補正密度指数 (散布8日後)
	散布前日							散布8日後						
	幼虫数				蛹	羽化殻	計	幼虫数		蛹	羽化殻	計		
3齢	4齢	5齢	6齢	5齢				6齢						
スミチオン乳剤 1,000倍	0.5	11.0	77.5	141.5	16.5	0.0	247.0	0.0	2.3	33.3	5.0	40.5	29	
トレボン乳剤 1,000倍	0	5.5	72.0	114.0	9.5	0.5	201.5	0.0	0.3	45.8	4.3	50.3	45	
サイアノックス粉剤 4kg/10a	2.0	19.0	71.5	118.0	11.0	0.0	221.5	0.0	7.5	63.8	7.0	78.3	63	
無処理	3.5	11.0	60.0	203.0	16.5	0.5	294.0	2.0	38.0	116.8	7.3	164.0		

8/10薬剤散布。幼虫数・蛹数調査による試験。数値は2反復の平均値を示す。調査地：農業研究センター所内圃場。乳剤は動力噴霧機、粉剤は手回し散布機を用いて所定量を散布した。補正密度指数の計算方法については表1を参照。

5 齢幼虫までには効果が認められるが、終齢幼虫(6 齢)に対してはいずれの薬剤も効果が低い

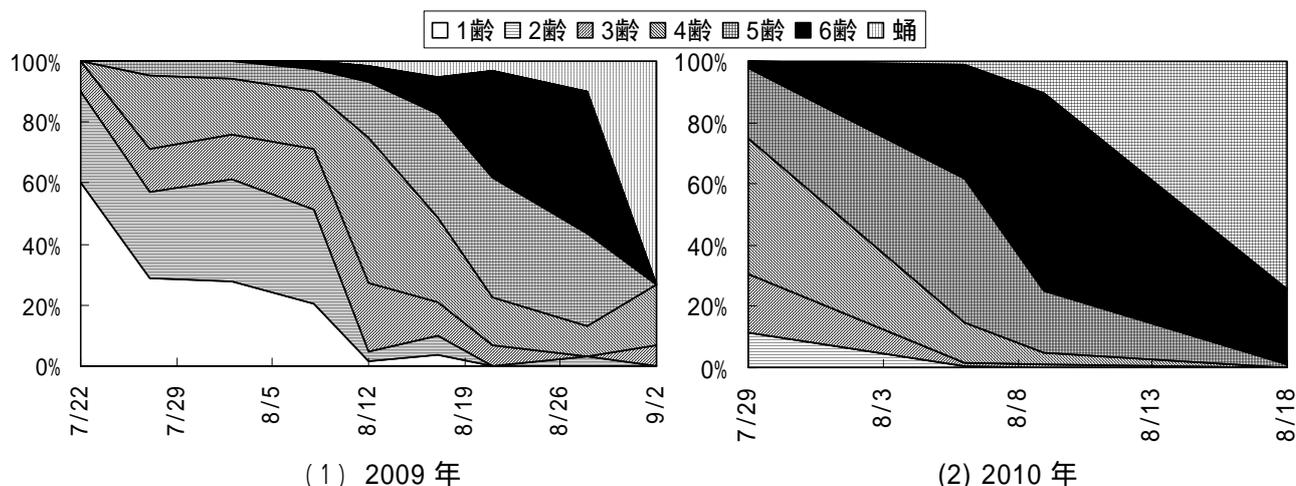


図 2. ウコンノメイガ幼虫の齢構成推移

調査地：農業研究センター所内圃場。

2009年は8月15日頃まで、2010年は8月5日頃までが効果的な防除時期